

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	社会学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育・研究理念および目的を再検証し、時代に適合した理念・目的を設定/明確化する	→理念・目的に関する公式ステートメントの制定、毎年度末の教授会におけるステートメントの定期的検証	A	A			
2. 教育・研究理念および目的を構成員および社会に広く公表する	→理念・目的に関するステートメントのホームページ、大学案内、学部紹介誌、入試要項等への公表	A	A			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目0.0.1	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
	(理念・目的の設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→ ● 理念・目的を設定している ○ 理念・目的を設定していない
	(理念・目的) 社会学部は、「真理はあなたたちを自由にする」(ヨハネによる福音書8章32節)という聖句を基本精神としながら、社会学を核にして現代社会を科学的に探求することを通じて、今日の社会に具体的な貢献をなすう人材を育成することをめざしている。 具体的には、社会学を核としつつ、隣接諸学をも視野に入れた幅広い学習を可能とし、学生各自の個性と関心に応じた複合的な(多領域にわたる)学習環境を整備している。これにより、幅広い学際的な知識に基づいた柔軟でバランスのとれた思考力と優れた問題解決能力をもち、グローバル化した現代社会で活躍できる人材の育成を教育目的としている。
★ 小項目0.0.2	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
	(周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→ ● 周知・公表している ○ 周知・公表していない
	(説明) 学内、学外に対して、ウェブや雑誌・広告紙を通して社会学部の理念・目的を周知するよう取り組んでいる。具体的には、学術講演会などイベントでの周知やホームページ、大学案内、学部紹介誌、入試要項等で公表している。
小項目0.0.3	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
	(検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→ ● 検証している ○ 検証していない
	(説明) 毎年度末の教授会で、理念や目的を検証し、適切な理念・目的であるかについて議論している。また、理念・目的は、学部運営の基礎的事項でもあり、学部運営のすべての議論の根底において検討を行っている。

その他

《評価指標データ》

本学の育成した人材（卒業生）に対する社会（企業）の評価

卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか【基本的な基礎データ】

卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率【基本的な基礎データ】

卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率

理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数

理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	「社会学リレー講義」や「スタディ・スキル教育」は、社会学の初学者に分かりやすく社会学の基礎を学ばせることができ優れた効果を収めている。
☆ 小項目0.0.2	従来の取り組みに加えて50周年事業等も通して周知公表を図った。
小項目0.0.3	年度末の教授会や学部懇談会において、活発な議論が尽くされ効果があった。
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	「社会学リレー講義」や「スタディ・スキル教育」についてこれまでの実績を踏まえて、学生との接し方の改良を行う。
☆ 小項目0.0.2	学部創立50周年事業をとおして多角的に実践を行い、また当該事業を踏まえての取り組み、たとえば50年史の刊行などを、さらに活用して効果を上げていく。
小項目0.0.3	活発な議論が行われるように、定例の教授会で必要に応じて問題提起も行っていく。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
☆ 小項目0.0.3	
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	
☆ 小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

☆ その他(自由記述) 目的・理念の浸透が年々図られているので、さらにこれまでの取り組みを継続し伸長を図る。

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○学部の理念・理念の設定、公表が順調に進められています。学生への浸透度に関し、ある時期に調査が行われることが期待されます。

【学内委員】

○社会学部の理念・目的の設定、公表は適切に行われており、評価できます。

○学部の理念・目的について定常的に教授会で議論し、それを明確化し、HPや各種刊行物を使って積極的に公表している点は大いに評価できます。学部創立50周年事業の一環として取り組まれてところもあると思いますが、素晴らしい取り組みが継続するよう、今後もさらなるブラッシュアップを期待します。

○理念・目的が適切に設定され、公表も進んでいます。大変難しいことですが、どれ程周知されているかを測る方法（指標）を考え、検証していくことを今後の課題とされてはどうでしょうか。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・学部の理念・目的について毎年、教授会で議論し、理念・目的の浸透も進んでいるのは大変優れていると思います。

・理念・目的を明確にし、それを社会に広く公表するためにリレー講義などの諸施策を行ったり、教授会などでの議論を重ねている点は大変評価できます。また、その公表に関しても、HPや各種刊行物を使って積極的に行っており、これも評価できます。ただ、これで目標が達成されたとは必ずしも言えないので、次年度以降もさらに積極的にこれらの内容のブラッシュアップに取り組むことが望まれます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目0.0.1

基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」

達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」

○小項目0.0.2

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」

達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」

○小項目0.0.3

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし